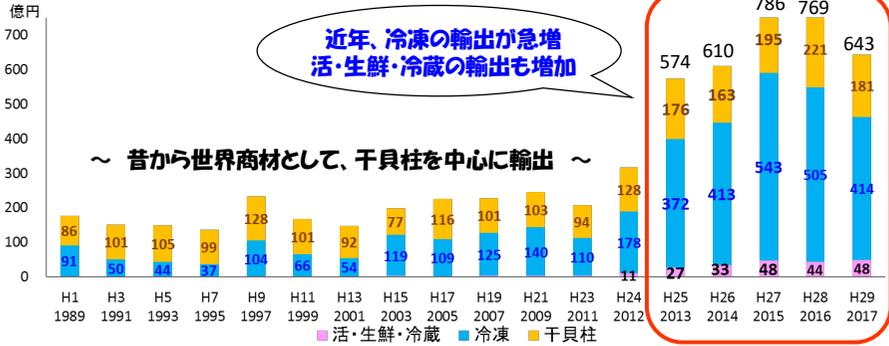


日本全国からのホタテガイ輸出状況

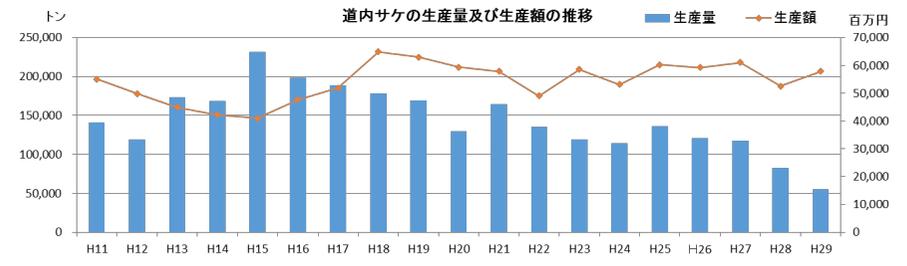


	1988	2014	2017
①香港	54	①アメリカ	147
②フランス	36	②香港	142
③アメリカ	19	③中国	140
④台湾	18	④ベトナム	75
⑤シンガポール	2	⑤台湾	40
中国	0	⑦シンガポール	13
ベトナム	0	⑧フランス	2
		⑩ベトナム	15
		⑭フランス	3
総計	132	総計	610
		総計	643

道産ホタテの輸出金額の推計
2016年 道外港 264億円 (道推計)

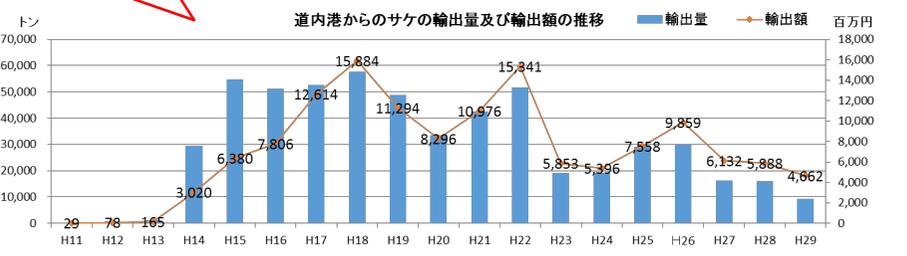
輸出先国も様変わり
世界の工場 中国、ベトナムが台頭
フランスは、日本産ホタテ製品からの貝毒検出による禁輸措置(1990～2002)を受けている間に、安価な南米産に市場を奪われた。

道内のサケ生産と道内港からの輸出推移



H14年から輸出が急増
近年は漁獲減少に伴い輸出も減少

H29 輸出額
① 中国 21億円
② ベトナム 13億円
③ タイ 10億円



北海道食の輸出拡大戦略 H28.2

基本戦略

- 品目や輸出相手先国・地域に共通する基本的な施策
- I 商流・物流網の整備 安全・高品質・こだわりの道産食品を確実かつ低コストで現地に届ける取組の推進
- II 輸出支援体制の確立 生産・製造と販売の両面における輸出促進に向けた基盤の整備
- III 新たな市場への展開 需要増加が見込まれる品目、国・地域に関する販路開拓と輸出体制の構築による新市場の獲得

展開方向

重点品目: 輸出額や今後の成長性を踏まえ設定
重点国・地域: 輸出額や販路開拓の可能性を踏まえ設定
重点品目・重点国・地域 → 関係者の連携の中で道として取組を先導

品目	主な展開方向	重点品目	対象国・地域	平成30年目標
水産物・水産加工品 613億円	<ul style="list-style-type: none"> ●輸出先国等の拡大 ●高付加価値製品の輸出拡大 ●衛生管理基準への対応 ●高鮮度商材の物流対策 ●北海道ブランドの浸透・保護 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホタテガイ、サケ、高次加工品、高鮮度商材 	<ul style="list-style-type: none"> ●重点国・地域: シンガポール、タイ、ベトナム、中国、香港、台湾、韓国、EU、アメリカ ●その他取組先: マレーシア、インドネシア、フィリピン、ロシア、中東 	水産物・水産加工品 750億円
農畜産物・農畜産加工品 25億円	<ul style="list-style-type: none"> ●生産基盤の維持・拡大 ●生産者団体等との連携強化 ●輸出関連施設の拡大 ●物流対策(鮮度保持、低コスト) ●効果的なプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> ●コメ、青果物、牛肉 	<ul style="list-style-type: none"> ●重点国・地域: シンガポール、中国、香港、台湾、アメリカ ●その他取組先: タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、フィリピン、韓国、EU、ロシア、中東 	農畜産物・農畜産加工品 100億円
その他加工食品 25億円	<ul style="list-style-type: none"> ●取組事業者の拡大 ●商品の発掘・磨き上げ ●きめ細やかな企業支援 ●輸出モデルの確立 ●効果的なプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> ●菓子類、機能的食品 	<ul style="list-style-type: none"> ●重点国・地域: シンガポール、タイ、中国、香港、台湾、韓国、ロシア、アメリカ、中東 ●取組先: ベトナム、マレーシア、インドネシア、フィリピン、EU 	その他加工食品 150億円
合計 663億円				合計 1,000億円

国・地域別展開方向(市場環境等を踏まえた重点化)、テーマ別展開方向(戦略を加速するプロジェクト)

連携・推進体制 オール北海道の関係者の連携、きめ細やかな支援体制、重点品目毎の推進プラン、実態や進捗状況を踏まえた効果的な推進

道輸出品目、輸出国の拡大～新たな魚種の可能性～

- 経済成長が著しい東南アジア、東アジアへの輸出拡大
対象魚種: 資源が増加傾向にあるブリ、サバ、イワシ、秋サケ加工品、鮮魚
対象国: シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、台湾、香港、中国等



- 輸出が堅調なEUへのホタテについて、輸出の拡大を目指す
市場調査やPRの実施



浜の女性応援隊(ハマドンナ)

取組のきっかけ

漁村における女性の役割は、とても大きい

- ・陸上作業、海上作業などの漁業従事者
- ・加工や販売
- ・女性部活動や地域振興
- ・家事、育児、介護

それなのに・・・

- ・漁業における女性対策って、あまりないような・・・
- ・なぜ、農業女性ほど注目されないの??
- ・女性たちは、どんなことを望んでいるのかな?
やりたいこと? 将来展望??

女性の「チカラ」で浜を元気にしたい!

平成27年6月 浜の女性応援隊
ハマドンナを組織

メンバー 水産林務部水産局、振興局女性職員が中心
H30. 4現在 52名(女性39名、男性13名)

- 取組
- ① イベントなどのお手伝い
 - ② 勉強会などの開催
 - ③ 研修会の開催
 - ④ 活動内容の情報発信

赤レンガチャレンジ事業:
「漁村(はま)をささえる女性活動応援事業」
で実施



ハマドンナ キャラクター 鮭の人魚 Keiちゃん

私たちが取り組みたいこと

女性の元気

収入アップ
きっかけ作りや橋渡し

- ・加工や販売などの取組支援
- ・チャレンジしたい人が気軽に相談できる窓口

女性のチカラ

人材育成
ネットワーク作り

- ・経営力向上やビジネス発展につながる研修
- ・女性漁業者のネットワーク作り
- ・異業種交流

存在感を高める
情報発信

- ・活躍する女性漁業者やその取組を広く発信
- ・女性漁業者にスポットを

浜を明るく元気に!

私たちの取組

- ① イベントなどのお手伝い

ふれあい鍋

H29.4.23(土)、H29.10.8(土)

石狩湾漁協厚田地区女性部

- ・4月 あんこう鍋
- ・10月 いくらとごはん、さけ鍋販売



H28~H29

石狩湾漁協厚田地区女性部による漁港胸壁ペイント

漁港を明るく元気に地域振興を図りたい！



石狩湾の自然の恵みにありがとう！

海がある限り 漁業の未来は輝いてます！！

救命胴衣着用し今日も元気でいってらっしゃい！

安全操業祈ってます



②勉強会の開催

H29.8.4

浜の女性応援隊(ハマドンナ)勉強会

テーマ 女性の意識改革

～浜の女性のために私たちができること～

講師 社会保険労務士 今野知可子さん



③研修会の開催

ハマドンナ×カゴメ(株)共同企画

H28. 9. 1(木)道産子トマトパツツア講習会

カゴメ「基本のトマトソース」でトマトパツツアに挑戦！



いびい



ホッキ貝とサラサイのトマトパツツア



③研修会の開催

H30. 1.17(水)

女性漁業士と漁業士会役員 +浜の女性応援隊合同研修会

講演

「津軽海峡マグロ女子会の取組」

～広域連携で生き残る地域を造る～

津軽海峡マグロ女子会 北海道側代表 杉本夏子さん



女性漁業士

1 女性漁業士数の推移

H7	H10	H15	H20	H25	H27	H29
3	16	21	20	17	13	12

- ・目標数 24名(指導所本・支所 1名)
- ・現女性漁業士から確保対策の要請(H29:1)
- ・認定期間を5年延長 定年を65歳→70歳へ

2 女性漁業士登用のメリット

- ① 地域振興や担い手育成・確保に女性の視点を導入
 - ・女性漁業者にとって魅力のある漁業・漁村の形成
- ② 漁協女性部や振興局・指導所との連携強化
 - ・道職員と連携した活動や情報交換の活性化
- ③ 漁村女性リーダーの資質向上
 - ・女性漁業者が参画・活躍しやすい環境の形成

女性漁業士の活動

H30. 1.20(土) 北海道女性漁業士おさかな料理教室 札幌市立大通高等学校

講師

- 根室地区 羅臼漁協 指導漁業士 田中 郁子さん
 日高地区 えりも漁協 指導漁業士 川崎 尚子さん
 石狩地区 石狩湾漁協 指導漁業士 中井寿美子さん



女性漁業者の現状

1 漁業就業者に占める女性の割合

・漁業就業者(海上作業に1年間で30日以上従事した者)の割合は11.7%(H25)

	H15	H20	H25
漁業就業者数	29,890	33,568	29,652
うち女性	4,423	4,706	3,466
女性の割合	14.8%	14.0%	11.7%

(漁業センサス)

2 漁協組合員に占める女性の割合

・正組合員に占める女性の割合は3.0%(H26)
 ・准組合員に占める女性の割合は16.7%(H26)

	H25	H26
正組合員数	16,493	16,195
うち女性	491	483
女性の割合	3.0%	3.0%
准組合員数	1,425	1,509
うち女性	266	252
女性の割合	18.7%	16.7%
計	17,918	17,704
うち女性	757	735
女性の割合	4.2%	4.2%

3 北海道指導漁業士(女性)の推移

・北海道指導漁業士(女性)はH7年度より認定

H7	H10	H15	H20	H25	H27
3	16	21	20	17	13

漁業・漁村における女性の労働状況等に関するアンケート結果から (抜粋)

調査時期:平成27年2月
 調査方法:JF全道漁協女性部研修大会において、実施
 調査対象:上記研修大会に出席したJF漁協女性部員431人
 回収率:93.3%

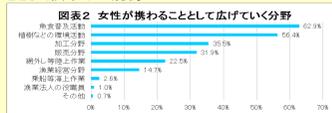
1 漁ろう作業を行う上で、苦勞していること、不便に思っていること

「体力的にキツイ」が49.0%で最も多く、次いで「休みが定まっていない」40.3%、「寒くて冷える」35.2%、「漁獲物、道具が重たい」となっており、体力面での苦勞や、休みや労働時間の長さに対する苦勞が伺える。(複数回答可 無回答除く N=253)



2 漁業・漁村において女性が携わることとして広げていく分野

「食育などの食育普及活動」62.9%、「植樹などの環境活動」56.4%と女性部活動の内容が多く、次いで「加工分野」35.5%、「販売分野」31.9%となっている。(複数回答可 無回答除く N=307)



3 女性が参画しやすい環境を整えるうえで必要なこと

「家族間の協力」55.8%、「労働の省力化など肉体的負担軽減」38.2%、「家事・育児・介護等の負担軽減」37.5%、「女性意識改革」29.8%となっている。(複数回答可 無回答除く N=285)



4 自由記入欄に記載された主な意見

主な意見として、「女性への配慮や理解を求めるもの」4件、「女性部活動への理解や協力などに関するもの」4件、「家事への協力など家庭生活の改善を求めるもの」3件、「意識改革に関するもの」3件、「機械化などの作業改善や漁作業の苦勞」などに関する3件の記載があった。
 ・夫と乗船し、家に帰っても女性は家事があり男女差を感じる。
 ・浜の女性はこうあるべきという固定概念からの解放、農業に比べ機械化が非常に遅れていると感じる。
 ・休みを多くしたい など

農業女子PJ



- ・農業女子の知恵を活かした商品/サービス/情報開発。
- ・農業女子の知恵を活かした既存商品等の改良。
- ・農業女子を旗印とした既存商品等のセット化。
- ・生産物の売り場企画
- ・自社サービスに農関連サービスを取り込む
- ・所属員の福利厚生に農関連サービスを取り込む。
- ・不満を解消する商品改良。
- ・欲求を満たす商品開発。

広く社会に発信

農業女子の定着、企業とのビジネス化、生産物の付加価値化

課題
これから・・・

女性が実のある活動をするために
自分の思いを行動に起こそう
行動を起こすためには「知る」こと
そして実際に「行動」しよう



みなさんとともに活動したい・・・



よろしくお願ひします！

